


主体的な学びの実現と国語力の定着を図る効果的な書字指導

静岡大学提供
作成日 2016年 2月20日
更新日

	研究者氏名 すぎ さき さとこ 杉崎 哲子	所属機関 静岡大学教育学部	関連キーワード(複数可) 書字指導、書写・書道、国語学習、書字支援
	主な研究テーマ ・文字を書くことの意義と可能性の追究 ・日常に生きる書写力育成のための指導法の確立 ・「書く過程」に着目した書字指導用の教材開発 ・「総合的な国語力」定着のための書字活動の検討		主な採択課題 ・研究活動スタート支援平成23～24年度(配分総額: 3,380千円) 課題名「日常に生きる書写指導確立のための基礎研究—字形損傷要因の分析を通して—」 ・挑戦的萌芽研究 平成25～27年度(配分総額: 3,510千円) 課題名「日常に生きる書写指導確立のための『書く過程』に着目した効果的な教材開発」

① 科研費による研究成果

「書写」は国語科の一領域だが、現状では日常生活に活かされているとは言い難い。そこで書写的視点で書字指導を検討し、以下の成果を得た。

1. 小学校学習漢字の「書き」のための独自の指導法を考案

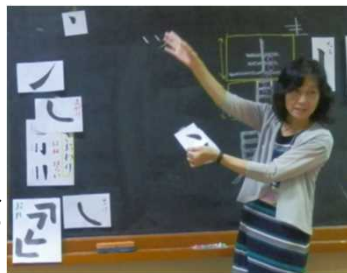
小学校の学習漢字の「書き」の誤答1006字を分析し、**字形認識(見方)と運筆動作(書き進め方)の課題を明確にした**。それをふまえ、「筆使い」「比較」「関連」「仲間」という4つのチーム編成で漢字を学習するという独自の指導法を考案し、学会発表だけでなく現場や家庭で生かせる書籍を発行した。

2. 筆記具の「望ましい持ち方」の科学的検証

筆圧と握圧を測定して「持ち方」と「書き進め方(手指の動かし方)」との**相関性を検証した結果**、教科書にある「筆記具の軸上部が親指の付け根ではなく人差し指の側面に接する持ち方」が有効であることが分かった。

3. 書字が苦手な児童生徒への指導実践

書字が苦手な子どもの多い海外補習授業校や日本人学校、特別支援学校で、**水書シートやiPadを活用し、点画の種類から「書き方」を示す独創的な授業を展開した**。手書き強化の指導は書字だけでなく「作文」、「話し言葉」の喚起、「読解」を深める等の総合的な国語力に寄与し主体性を育む機能も確認できた。



●積極的に現場で活用し、「ひらめき★ときめきサイエンス」でも公表した。

② 当初予想していなかった意外な展開

- ・障がい者の方に書道体験の機会を提供し、書き進め方を提示する支援をしたところ、文字を容易に覚え積極的に学習するようになった。また、自閉的で極度の潔癖症のため、授産所でも人と同じ道具が触れず壁に向かって一人で作業していた障がい者の方が、母への感謝の思いを書き表して以降、皆と同じ作業をし、外出や人との会話ができるようになった。
- ・執筆法という視点から、筆記具メーカーとの共同研究の話が進んでいる。



③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

文字の手書きは、学習の定着を図るのみならず、コミュニケーション力を高め、心を育てる。しかし2020年のICT化の促進に向けて、今以上に文字を手書きする場面が減少すると思われる。そこで、今後は、これまでの研究成果を生かし、筆圧確認機能を装備した入力ペンによって、負担を軽減した書き方が分かるようにする等、文字を書くことが苦手な子どもたちの書字にも役立つ教材開発に取り組んでいく。